

AT オートマチックトランスミッション

目次

概要・シフトロック故障診断	AT- 2
概要	AT- 2
シフトロック故障診断	AT- 2
準備品	AT- 2
一般計測機器	AT- 2
システム概要	AT- 2
概要	AT- 2
構成部品取付位置	AT- 3
回路図	AT- 3
正確、迅速な診断のために	AT- 4
診断上の注意	AT- 4
診断フロー	AT- 4
診断前点検	AT- 4
現象別の故障診断	AT- 5
現象1 キースイッチON位置でブレーキペダルを踏んでもセレクトレバーがP位置から動かない。又は、キースイッチON位置でブレーキを踏まなくてもセレクトレバーがP位置から動く。キーを抜いている状態でセレクトレバーがP位置から動く。	AT- 5
現象2 キースイッチON位置でセレクトレバーをR位置にしてもブザーが鳴らない。	AT- 7
構成部品点検	AT- 7

概要

ここではシフトロック故障診断について記載する。その他の整備要領については「スカイラインR33型整備要領書（A006022）及び追補版 I（A006025）」を参照のこと。

シフトロック故障診断

準備品

一般計測機器

名 称	用 途
サーキットテスター	各部の抵抗、電圧値の点検

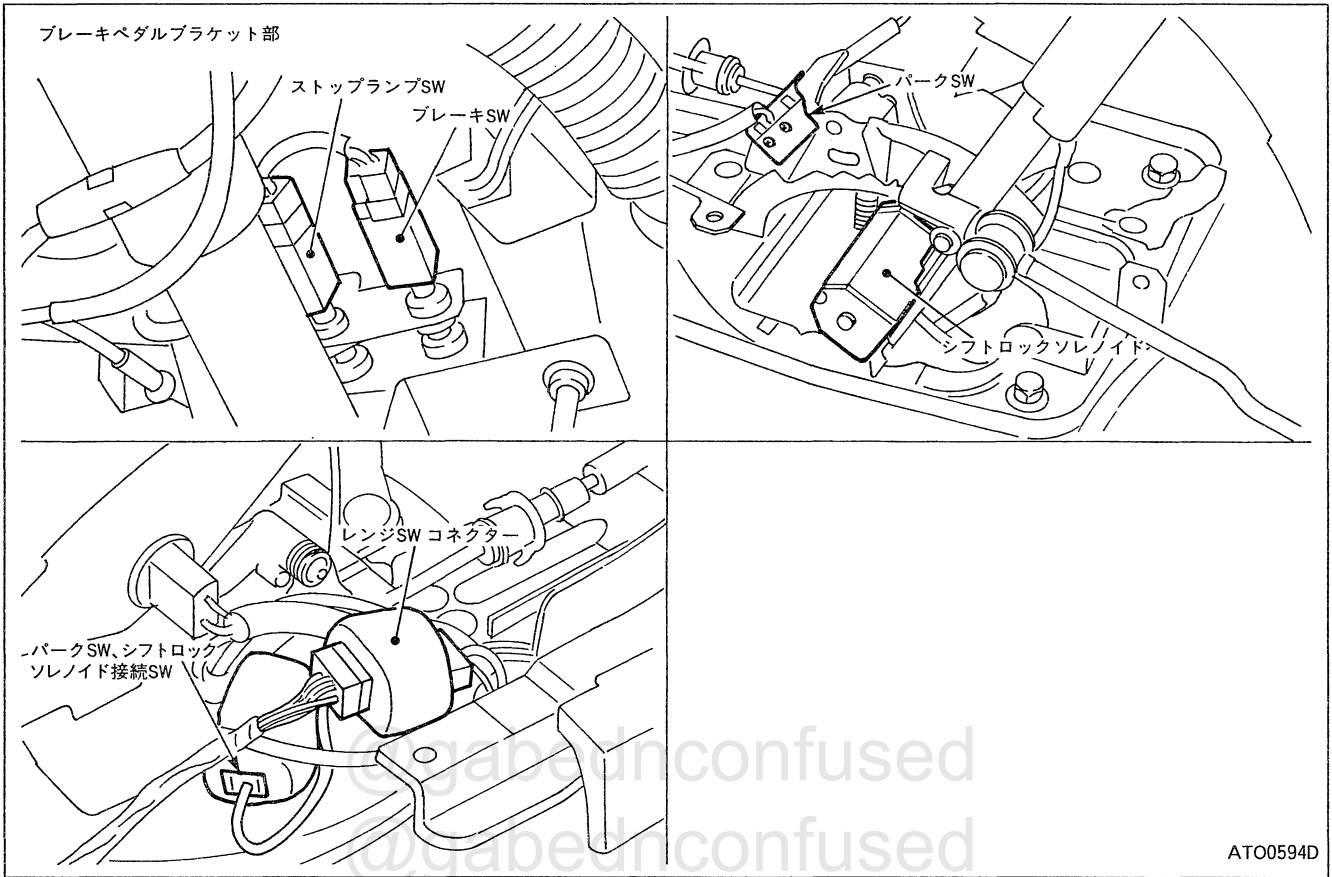
システム概要

概要

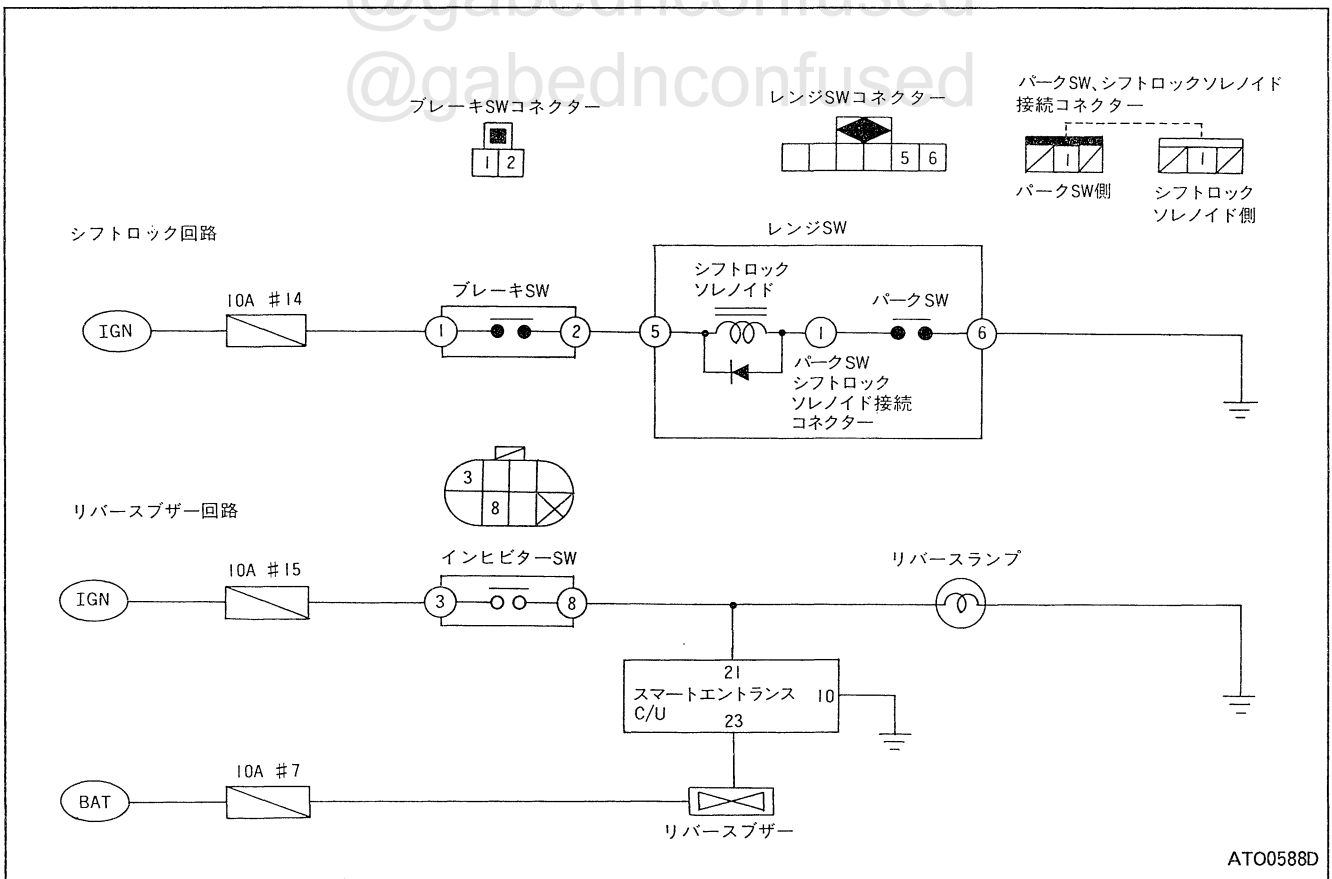
- 機械式キーインターロック機構はシフトロック機構として以下の機能がある。
 - キースイッチON位置でブレーキを踏みながらでないとセレクトレバーがP（パーキング）位置からセレクトできない。
 - キーを抜いた状態では、セレクトレバーをP位置からシフトできない。
 - キーインターロック機構としてセレクトレバーをP位置にしないとキーが抜けない。
 - リバースブザー機構としてキースイッチON位置でセレクトレバーがR位置にある場合ブザーが鳴り警報する。
 - シフトロック及びキーインターロック機構は、シフトロックソレノイドのON、OFF及びキーシリンダー内のローテーター、スライダの作動により行っている。
 - リバースブザーの作動はインヒビタースイッチ（リバース）の入力信号による。
- 機構の詳細については、「新型車解説書」を参照すること。

シフトロック故障診断

構成部品取付位置



回路図

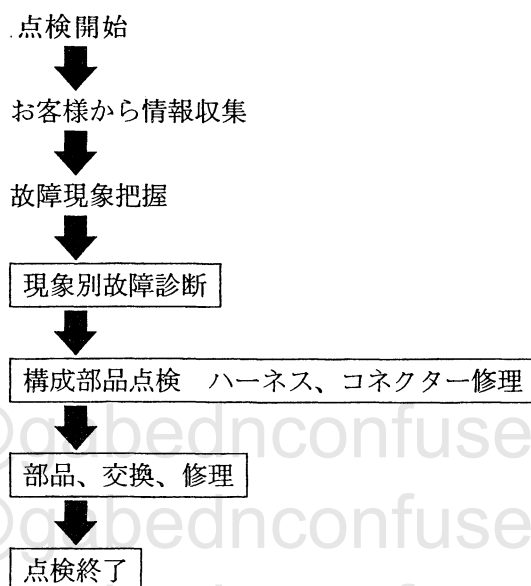


正確、迅速な診断のために

診断上の注意

- シフトロック部のいずれかに不具合がある場合には診断フローを実施し、また、不具合部を判定してから故障箇所の修理を進めること。

診断フロー

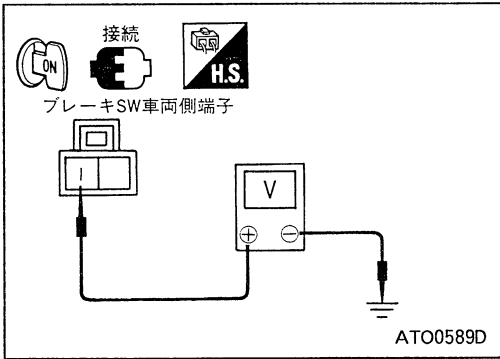


ATO0293D

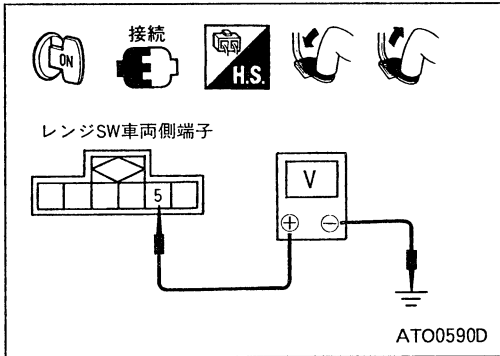
診断前点検

- 始めに以下の点検を行った後に、故障診断を実施すること。
ヒューズの断線及びヒューズまでの電源経路。
キーインターロックケーブルの取付状態。
- A/Tポジションの点検を行う。(「スカイラインR33型整備要領書 (A006022) MA編主な点検調整要領オートマチックトランスアクスル」の項参照)

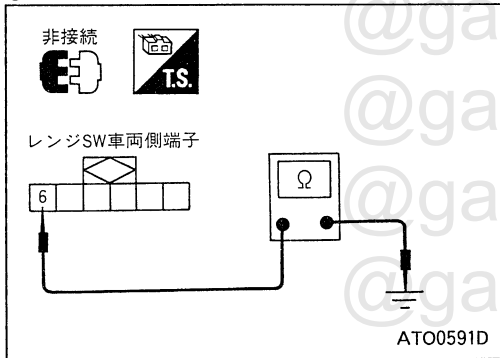
A



B

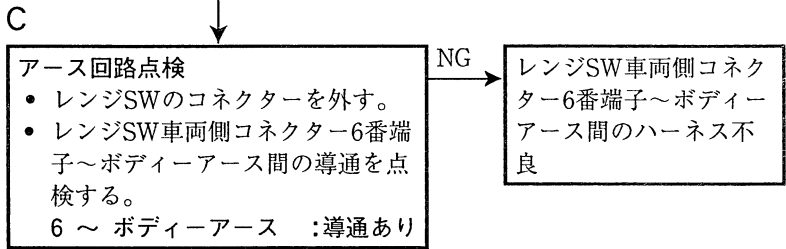
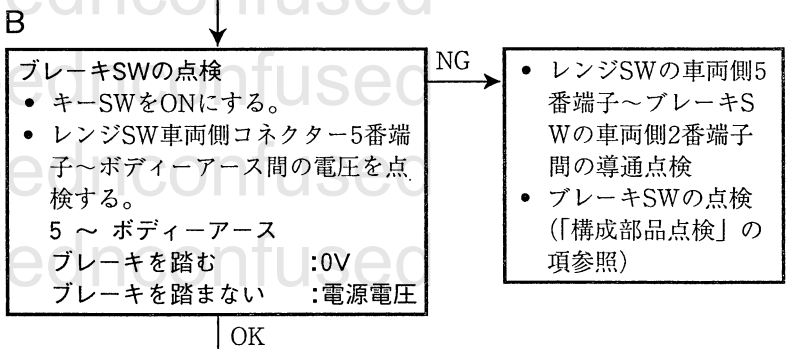
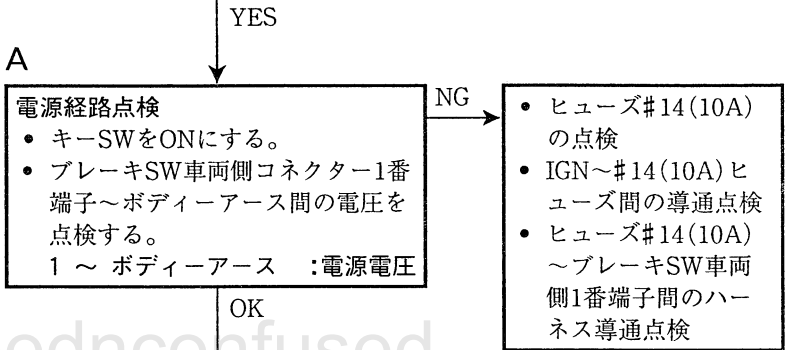
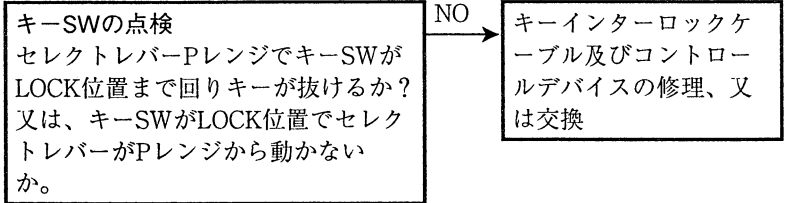


C



現象別の故障診断

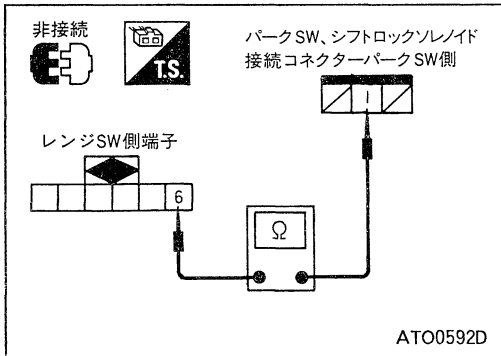
現象1 キースイッチON位置でブレーキペダルを踏んでもセレクトレバーがP位置から動かない。又は、キースイッチON位置でブレーキを踏まなくてもセレクトレバーがP位置から動く。キーを抜いている状態でセレクトレバーがP位置から動く。



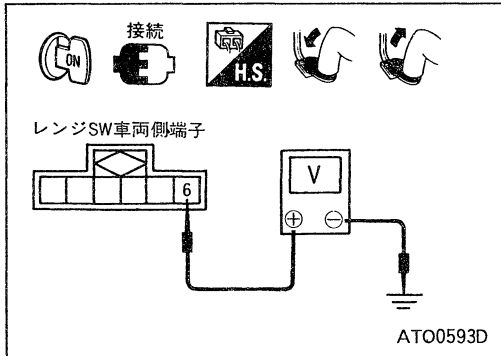
次ページへ

シフトロック故障診断

D



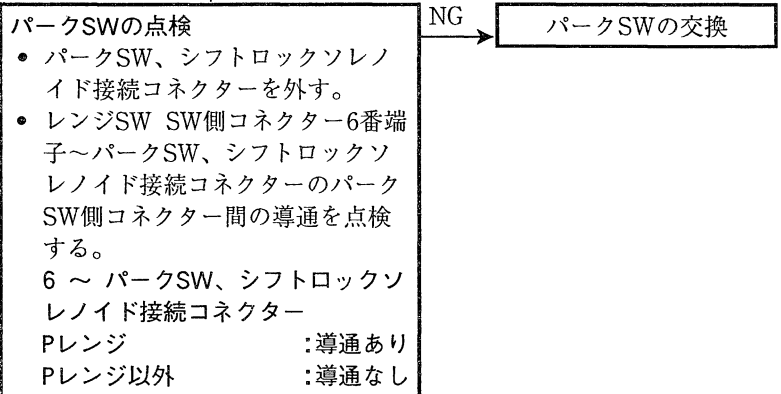
E



現象1 キースイッチON位置でブレーキペダルを踏んでもセレクトレバーがP位置から動かない。又は、キースイッチON位置でブレーキを踏まなくてもセレクトレバーがP位置から動く。キーを抜いている状態でセレクトレバーがP位置から動く。(続き)

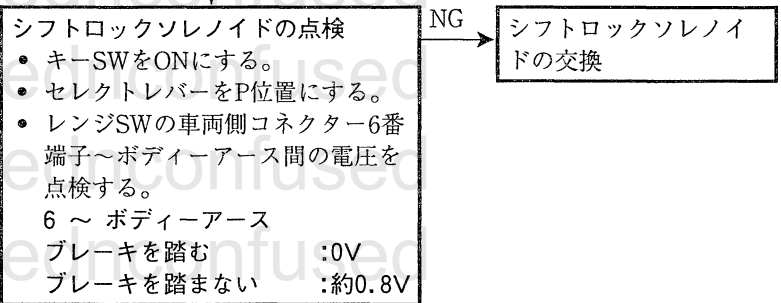
前ページより

D

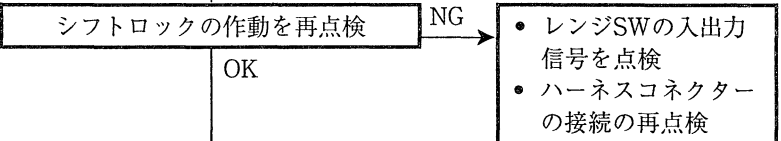


OK

E



OK

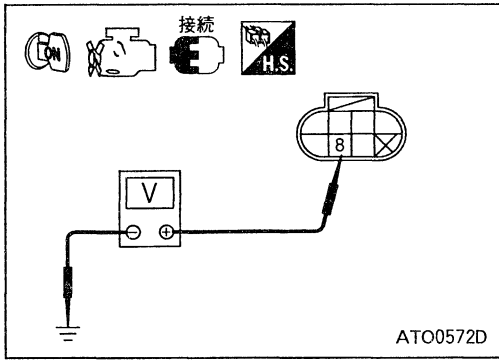


OK

終了

シフトロック故障診断

A



現象2 キースイッチON位置でセレクトレバーをR位置にしてもブザーが鳴らない。

A

入力信号点検(インヒビター-SW)

- キー-SWをONにする。
- セレクトレバーをR位置にする。
- インヒビター-SWの8番端子～ボディーアース間の電圧を点検する。

8 ～ ボディーアース : 電源電圧

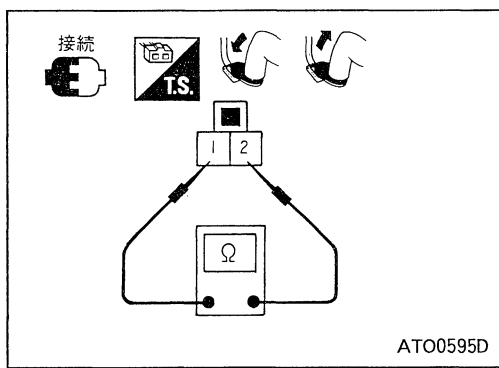
NG →

- #15(10A)ヒューズの点検
- IGN～#15(10A)ヒューズ間の導通点検
- #15(10A)ヒューズ～インヒビター-SWの車両側コネクター3番端子間の導通点検
- インヒビター-SWの点検
(「スカイラインR33型整備要領書(A006022)オートマチックトランスミッション故障診断の自己診断機能による故障診断構成部品点検」の項参照)

OK ↓

スマートエントランスC/U及びリバーズブザーの点検を行う。
(「リモートコントロールエントリーシステム故障診断」の項参照)

@gabednconfused
@gabednconfused
@gabednconfused
@gabednconfused



構成部品点検

ブレーキスイッチ

- ブレーキスイッチのスイッチ側コネクター1～2番端子間の導通を点検する。
 - 1 ～ 2
 - ブレーキペダルを踏む : 導通なし
 - ブレーキペダルを踏まない : 導通あり

M E M O

@gabednconfused
@gabednconfused
@gabednconfused
@gabednconfused